

日野稲門会会報

創刊号

御挨拶

日野稲門会

会長 佐藤正和



平成2年6月4日、六大学野球の優勝をかけた早慶戦に、13年振りに勝って良かったですね。特に本年11月に任期満了の西原総長にとっては、ほんとうに最高の贈物であったと思います。テレビに写った総長の顔は何とも言えない満足の笑顔でした。優勝の力はどこから出たのでしょうか。やはり、ナインの自治と団結でなかったかと思います。

私は、常々早稲田の出身者は個々的で、団結することが下手だと感じております。それは“学の独立”が“個の独立”に変わったのかと思っていたところ、或る人に学生時代に刻苦精励して、遊びの結び付きによる連帯化をしなかったからだと教わりました。

さて、わが日野稲門会は、今や発足して10年を経過し、会合に、運動にささやかな活動をしております。日野在住の卒業生は約千人を超えますが、なかなか稲門会に顔を出して戴けません。正直に言って会の魅力が無いのかも知れません。しかし、これは皆さんのアイデアによって、皆さんとの連帯ができるものと信じています。

ついでに、日野稲門会は、目下この様なことをしておりますよ、これから先にこの様なことを行うのだけれど、ここのところに知恵を貸してくれませんか、などなどと広報を目的として、このたび会報を出すことになりました。これには先ず、試作品から発行致しますので、どうか会報を皆様で育てて下さい。宜敷くお願い致します。



日野稲門会創立総会 S 54. 6. 3 於 八王子 大丸

日野稲門会の設立経過

千田吉郎

この度、本懐の親睦を深めるため、会報を発行するにあたり、簡単に当会の経過を報告させて戴きます。

昭和53年、中央大学が八王子市移転にともない、八王子早稲田会が主催して、富士森球場において、早稲田大学と中央大学の野球部との親善試合が開催されました。近隣の市として祝賀会に出席を懇請され、その際に、紹介されました。当時、日野市に稲門会がありませんでした。その時、日野在住の山田裕四氏（31年政卒）とお話をするうちに、近々母校の創立百周年記念もある事だから、日野市にも稲門会を作って、母校に協力しようではないかという情熱に感動致しまして、それでは、二人で、日野在住の卒業生を掘起こして、来年中に創立総会をやろうではないかと、一杯気嫌で約束してしまったことが始まりです。その後、早速、その準備に取り掛かり、昭和44年度版の校友会の名簿から日野市在住の校友を抜き取り、又、校友会本部に回避納入者の控を提供して頂き、その他聞き込みや御紹介など約370名程在住者が解り、その中で、電話連絡等で、約百名確認することが出来ました。

昭和54年は折しも、新総長の清水 司先生が誕生致しまして、八王子早稲田会が主催で、就任の祝賀会が八王子大丸で開催されることになり、当日日野市の校友諸氏の出席を懇請し、この機会に、日野稲門会の創立総会を開催しようと、山田氏と意見が一致し、八王子早稲田会会長斉藤氏の了解と指導のもとに、昭和54年6月3日創立が、全員一致で決定しました。又、昭和55年度の総会において、会則及び役員を選出、事業計画などが決まりました。

親睦ゴルフ会について

森田治夫

日野稲門会の皆様に親睦ゴルフ会についてお知らせ致します。

大会経過

回	開催日	場 所	参加人数
第1回	s58. 5.10	府中C. C	7
第2回			
第3回	s61. 3.18	長竹C. C	8
第4回	s62.10.14	都留C. C	11
第5回	s63.10.12	東京バーディ	8
第6回	H 1. 3. 7	狭山C. C	8
第7回	1.10.25	東名厚木C. C	8
第8回	2. 4.13	神奈川C. C	7

参加者の戦績をみますと、最近3回の平均ストロークは110
最高は153、最低は87であります。

大会の通知は稲門会発足時に伺った趣味、総会時のお話をもとに
して差し上げております。次回は10月を予定しておりますので、
新たな御参加の御連絡をお待ち申し上げます。いつも、大会
終了後は直ちに日野に舞い戻り、カラオケ等を交えて表彰式、反省
会を行い、次回への意欲を燃やしている（気持だけ）状況で有りま
す。



昔話の出来る会

松本嘉一

私の出生地は、大田区大森です。戦災で家を焼失しましたが、下町大森から離れられず結婚するまで、住居しておりました。従って、尋常小学校、中学校、大学への通学も大森の住居からでした。

就職の関係で、日野に住居を構えて、23年、畑の中に建てた住居も今は、静かな住宅街となり、春夏秋冬、移り行く季節を楽しみながらの生活です。しかし、足りないものが一つある。それは、小学校以来の旧友が大森、品川周辺に住んでいるということです。たまには、昔話がしてみたいものです。

そんな時、日野に稲門会設立が有志の方により企画され、実行に移され、お誘いを受けて入会致しました。一回目の名簿を作るために、幹事諸兄のお手伝いを致し、校友の近況を調べましたところ、10年前に約500名の方々が日野に住んでいることがわかりました。諸手続きの後、設立総会、喜びいさんで会場に来てみますと、既に、多数の校友がお出でになっておりました。

皆さんも同じ気持ちなんですね。

諸先輩の方々から昔の早稲田の話が聞け、同年輩のかたがたとも会え、後輩諸氏から早稲田の近況が聞けるなんて、楽しくてたまりません。それに、大声を張り上げて校歌が歌えるんです。でも毎回出席してみて気のつくことは若い人が少ないことです。若い方々でも家庭を持って日野に住居を移された方も多いと思います。私と同じ様に昔話がしたくてたまらない時があるんじゃないかな。皆さん誘い合わせて出席してみませんか。楽しい会ですよ！

仕事から解放され、学友の中に交じって、ジット人の話を聞いているだけで楽しいもんです。

そんな日野稲門会の未長い発展とご盛会をお祈り致しております。

パソコンとの出会い

山本栄道

一昨年面白半分にはNECのパソコン教室に土日をかけ、4日程の講習を受けたことから、パソコンとの対話が始まった。当時は、ハードを持っていなかったため、早速、女房殿に相談したところ、“ボケ”防止にということでOKが出た。

しかし、NEC9801-VXが手に入るまでに2、3ヶ月が経ち、さて、スイッチを入れてみると、講習のようには行かない。あれはプログラムが出来ているの講習であったことに気づき、ハメラレタという感じが非常に強かった。とんだ玩具を買ってしまったものだ！こうなったら、償却しなければならない。手初めに、一太郎の参考書を手がかりに挑戦することにした。一時はパソコンを見ることも嫌な時があったが、思考錯誤を繰り返しながら、まずまずの文章が書けるようになったのは、半年も過ぎてからであったろう。過ぎてみれば、滑稽であるが、「58才の手習い」私にとっては大変な事をしたものだ。

さて、これだけのことでは、980の償却はとても出来ない。いろいろと聞いてみるとロータス1-2-3を勧められ、早速、始めてみたが、色々な関数が出てきて手に負えるものではない。ある日パソコン教室の看板をみて、入学手続きを取り、学生証なるものを手にしてみると、昔に返ったような気分になる。退社後に、好きな時間を予約して、通学を始めたが、10本の指を使わされたのには1時間でギブアップしてしまい、私だけは2本の指で勘弁して貰った。案ずるよりは、生むが安しの如く、授業料を払っただけのことはあり、トントンと進み、時々、躓き、“なぜ”こうなるのと質問すると、答は返ってこない。一方的に覚えるしかない。あとは手順を守り、決められたことを忠実に守るのみと悟った。一通り終わってみて、一人前に図表が書け、計算が出来るようになってきて、次の挑戦を考えているが、まだまだパソコンを使いこなすにはほど遠いと痛感し、えらいものを買ってしまったのだと後悔している昨今である。

早いもので、私がこの日野に移り住んで30年、私がこの世に生を受けてからの丁度半分になります。これから残りの人生も日野稲門会の一人として、緑の草木に囲まれた多摩平団地に住み着くことになるものと思われます。

ただ、もしも、一億円の宝くじがあたったらどうするか、賃貸住宅ではない一戸建ての庭の広い所に移りたいという夢も頭の片隅に。

豊田駅北口の多摩平団地も30年前に比べるとその建物の老朽化はかなりのものである半面、当時の樹木はたくましく成長し、緑が溢れ、小鳥達のさえずりは実にのどかで楽しいものである。

私の勤務先は都区内であるため、ビルの乱立する谷間で見られる鳥といえば、カラス・鳩位なものである。また、好きな酒もこの雑踏の中の赤ちょうちんで会社の同僚と飲むことが多く、豊田駅周辺の飲み屋さんにはほとんど緑がない。いずれ現在の勤務先も定年が近くなりつつあるので、そろそろこの豊田近辺の稲門諸兄の御指導を得て、“安い” “うまい” “近い” の三拍子そろった酔い店をご教示願えれば幸せである。

2年程前からこの日野稲門会の幹事とやらを仰せつかり、先輩諸兄の末席をけがしております。当日野市に在住の稲門諸兄は千名を超えると聞いておりますが日野稲門会の活動として年数回のゴルフコンペを開催しておりますが、同好諸兄の多数の参加を待っております。

XX

法律相談の専門家
多摩市聖ヶ丘4-23-3
弁護士 山田裕四
03-402-0068

税務・経営相談
日野市豊田 4-37-12
公認会計士 清水 隆
0425-86-7798

囲碁同好会のあゆみ

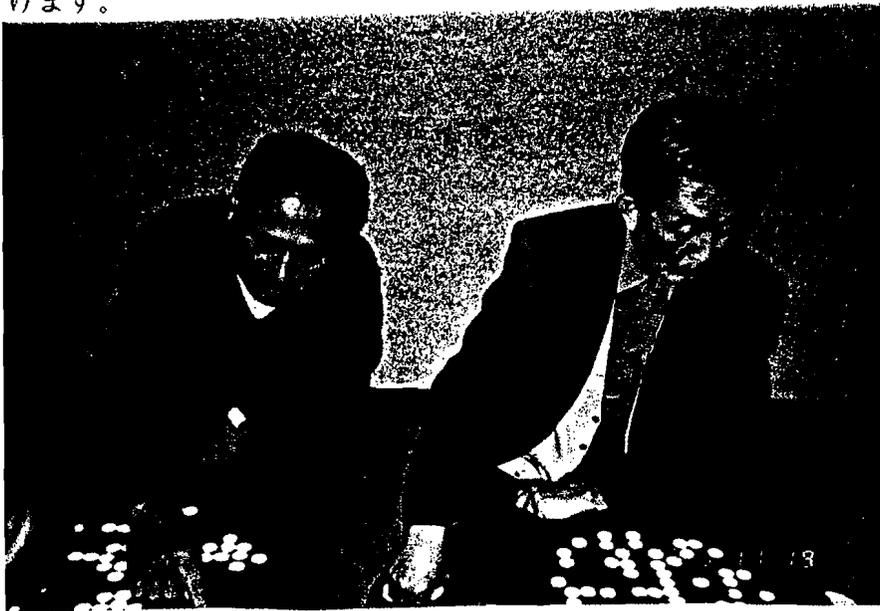
三浦永訓

日野稲門会に囲碁同好会があるのをご存知の方は少ないと思います。もう10年前にも溯りますが、校友の皆様から趣味のアンケートを頂戴致しました。ゴルフ、テニス、釣、ボーリング、囲碁、将棋……と多彩でした。

囲碁同好会は以来愛好者数人が集まり、断続的に忘年会をかねて、懇親囲碁大会を開催致しました。3年程前から皆様の都合がつかず、中断のまま今日に至っております。かねてより、国立稲門会では同好の校友が集まり囲碁会を開いておられることを聞き及んでいましたので、国立の校友宮田様に事情をお話し、合流させて戴きたいと申し出ますと、快く応じて下さいました。昨年11月より毎月第3土曜日午後1時より国立駅南口徒歩1分、多摩信西側ブランコ通3軒目KKビル2階にて親睦例会を開催しております。今までに、日野稲門会校友7名が随時参加致しました。下手は下手なりに、自由に、思うように、和気あいあいの中で盤上で会話に興じております。ご都合のつかれる校友の方々のお出掛けをお待ちしております。

今次総会のご案内の中で、校友皆様の趣味をお尋ねし、洗い直しをして、同じ趣味を持つ校友の輪を広げたいと思います。

以上は囲碁同好会の近況でございますが、他の同好会の活動もご案内させて戴きます。何卒よろしくご理解を賜りたくお願い申し上げます。



先日、30余年前の教え子の二人が結婚した。隅田川に屋形船を浮べての披露宴であった。人生2回目の結婚を幼なじみと結ばれたことの至福を祝うとともに、開発の進むウォーターフロントを展望しながらのうたげの企画をほめたてた。すると御兩人曰く、日程も船宴もカカシ先生の推薦であるとのこと。昨年の青森での同窓会の二次会での打合せを思い出して赤面した。私の健忘症も重症である。

昨今、「第2の人生論」が盛んである。60才前にワープロを習得して老化防止をしようとしたが失敗であった。木彫、水墨画を習いたい没有时间がない。そこで次の老化防止策を考えた。

(1) ジョキングの20キロに挑戦する。

(2) 甲斐駒ヶ岳(2966米)を東より登る。高度差2400米、日本アルプスで一番つらい登りである。威と品をそなえた個性的な三角峰に60才で登頂する。

(3) テニスのシングルス戦に参加する。

以上の強化策を実行し、テニスをは白寿まで楽しみたいと思っている。

尚、三多摩弁護士クラブのテニス会と陽春テニス会の事務局を引き受けて、山中湖テニスクラブの合宿を年4回と桜花の下のテニス会を年1回実施しています。参加は自由です。第2の人生のためにテニスを初めて下さい。

最後にテニスクラブを紹介します。

1. 多摩ローンテニスクラブ (TEL84-0989) 日野市旭ヶ丘
2. 平山台テニスクラブ (TEL86-0030) 日野市西平山
3. 百草テニスガーデン (TEL91-1212) 日野市百草
4. 八王子ローンテニスクラブ (TEL0426-76-6382)
5. 山中湖テニスクラブ (TEL0555-62-3390)
6. 須玉グリーンテニス (TEL0551-42-4321)

小宮山君

土方武彦

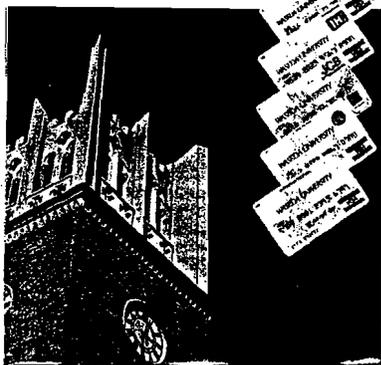
今日も小平市から自転車で小宮山君がやって来た。彼は脱サラ組で今は、保険屋になっている。彼と私とは、同期の桜。彼は、「陸戦」の出身であるが、静岡県の藤枝海軍航空隊にいた。私にとって、一風変わった友人である。彼は今まで乗っていた自動車を売りとばし自転車で切り替え、どこへでも自転車で行く。自転車の御陰で猛烈に体力がついたという。八王子に行く途中、我が家に寄っていくのだ。

日野に稲門会がまだない頃、「八王子の早稲田会に入らないか、入るなら俺が話をつけよう。」と入会を勧めたのも彼であった。彼は早稲田出身ではないが、顧客に早稲田出身者がいるらしく、その人物は優秀で、大学に残れば、当然に、教授になっている人だが、大学の勧めを辞退したと。

彼は、あるサークルに属し、人類のエゴイズムで地球は死にかけている・自分より先に地球を救おう。そして、「テクノボウ」になろうと。「テクノボウ」とは、宮沢賢治の理想とした世のため、人のために、無名の奉仕に徹して生きる人のことで、世界全体が幸福にならなければ個人の幸福はありえないという。

我々凡人にとっては、なかなか実行できないが、せめて宮沢賢治の思想と叡智を学ぼう。そして、小宮山のように、仕事以外で出来るかぎり、自動車を止め、自転車に乗ろう。また、歩こう。これが体力増強になり、環境を浄化して、地球を愛することになるからである。

早稲田カードの ご案内



既に校友の皆様には大学側から早稲田カードのおすすめが送付されていることと思いますが奮って御加入下さいませようお願い申し上げます。

登山・ハイキング

祖母井美章

もやにかすむ名栗の里は幻想のたたずまい

＃奥多摩・棒の峰～ゴンジリ峠～名栗鉱泉 \$ (1990.5.12)

友人長谷川晴一郎氏(立川稲門会会員)、大西洋治氏と待ち合わせ、立川8時54分発奥多摩行電車に乗る。

久し振りの顔合わせに鼻が咲いているうちに、9時48分川井駅に到着。ダラダラと坂を下り、大丹波川の向う側から3分の待ち合わせで、バスに乗る。乗客は我々を含め、たったの5人、何故バスの本数が少ないのか合点が行く。

上日向で下車し、奥茶屋の横から大丹波川を渡り、いよいよ山道に入る。天気予報は、曇り後雨だったが、前線が予想外に南下し、曇りだが雨の心配はなく、かえって照りつけられなくていい。ゴンジリ沢ぞいに遙か上の方まで続くワサビ田を何回か渡り返しながらか、グングン高度を取っていく。

今年は、陽気が暖かなせいで、山はすっかり若葉が一杯。目に染みて、洗われるようだ。杉林の中の急坂をゆっくり、小一時間程汗を流し、頑張りながら大きな岩を越え、もうひと登りすると、視界がぐっと開けて頂上にと飛び出した。天気が良ければ、広い展望がたっぷり楽しめるのだが残念ながら今日は視界が悪い。

しかし、遥かもやにかすむ名栗の里は、まさに墨絵のたたずまいを見せており、今までの疲れもどこへやら、3人ともしばし佇んだ。頂上は名栗側から登ってきた人達で賑わっている。聞いてみると、河又から登って名栗鉱泉に下りる人が多い。奥多摩側はやはりバスの便が悪かったり、アプローチが長いので、敬遠されるのかもしれない。

弁当を食べ、一時間ほど休憩の後、名栗鉱泉側に下山を始める。所々に巨岩があり、昔海底だったものが隆起した名残だと言う。ゴンジリ峠を経て、岩茸石と言う大岩の横を通り、ぐんと高度を下げて、工事中的林道を横断し、崖のような山道をすべり下りながら行

くと、もう名栗鉱泉はすぐそこだ。

鉱泉宿は、つつじの花に包まれ匂いたっていた。ラジウムの含有量が多いと言う温泉に手足を伸ばしゆっくりと浸ると本当にこの世の天国だ。山行のフィナーレを祝して乾杯し、美味しいソバを食べる。4時半頃宿を出て、バスに乗り、5時半飯能駅に到着する。

低い山を数時間歩いて一汗かき、山懐の温泉に浸るという極めて気儘な山旅を続けて今回で8回目となった。普段の忙しさに埋没する毎日から、たまには仕事を離れ大自然に身を委ねて精々熟年パワーをリフレッシュさせたいと思っている。

